

荒海あらかうみや

荒海あらかうみや

佐渡さどに横よこたう

佐渡さどに横よこたう

芭蕉ばせう

天あまの川がわ

天あまの川がわ

【作者】松尾芭蕉（一九四四〜一六九四年）（寛永二十一年〜元禄七年）江戸時代前期の俳諧師。現在の三重県伊賀市出身。幼名は金作。通称は甚七郎、甚四郎。名は忠右衛門宗房。俳号としては初め実名宗房を、次いで桃青、芭蕉（はせを）と改めた。北村季吟門下。蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い句風を確立し、後世では俳聖として世界的にも知られる、日本史上最高の俳諧師の一人である。芭蕉が弟子の河合曾良を伴い、元禄二年三月二十七日（一六八九年五月十六日）に江戸を立ち東北、北陸を巡り岐阜の大垣まで旅した紀行文『おくのほそ道』がある。